

特定非営利活動法人イマジン

〒427-0022 静岡県島田市本通二丁目4-20 Tel 0547-34-3370 Fax 0547-34-3371



イマジン通信

Vol.54



新年のご挨拶

理事長 澤島直通

新年、明けましておめでとうございます。昨年は皆様のご理解とご協力のお陰で各事業が安定した運営とサービス提供をさせていただきました。本当にありがとうございました。

イマジンは、本年5月を持ちまして満10年を迎え、11年目に突入する年になります。

平成15年に島田市扇町にあった「福祉の店ひまわり（島田市手をつなぐ育成会経営）」の1階で店番代わりに間借りさせていただいてから10年が経ちます。「地域で暮らす障害者のために何か・・・」という漠然を通り越して何も考えずに無に等しい位のスタートだったと思ひだし、我ながら恥ずかしくなります。

しかし、身を投じ、歩き出すと次第と見えてきた世の中の仕組み、行政の考え、当事者の苦しみ・楽しさ・矛盾。そして、地域の人々にはまだまだ馴染みがないだけ、知らないだけで一部で聞かれるような差別的な思いが無いことを。これは、一人ひとりのことなので10年たった今でも変わらぬ現状があります。『福祉は恋と同じ』どこかで読んだ文です。『恋も福祉も偶然の出会いから始まる』『恋も福祉も修羅場になることがある』『恋も福祉も想像力が無いと相手を不幸にする』というような内容でした。まだまだ、多くの人が出会っていないのです。隣の家に住んでいる、知り合いの子供に・・・ではなく、自分と重なる場面に出会っていないんだと思います。自分自身が偶然の出会いから始まり、様々な場面を目の当たりにしてきました。「どんどん地域に出て行こう！」と自然と思いついたのが何だったのか？「全員から車で送り迎え・・・と言われても・・・」という現実もありましたが(笑)、「自分で来れるのに「やってくれ」って・・・」というのが正直な気持ちでした。“自分が楽しみたいなら自分でやることは自分です”自分自身が親から教えられたことでした。“自分で動く”“自分が払う”障害でも健常でもなく当たり前のこと。今は、ヘルパーと一緒に外出する機会が多くなり、当時に比べると地域の中で自然とその姿を見ることが出来ます。しかし、年齢が高くなるにつれて親御さんの抱え込みが強くなり、社会との接点である外出は見られなくなります。当然、社会の中で一番大切な“人（他人）との出会い・ふれあい”が生まれるはずはありません。イマジンの利用者でも同じ傾向が強く「私が出来から」という親御さんのご意見が圧倒的に多いのが現状です。とても、もったいなく、残念です。ヘルパーの支援とその目的と効果が必要なのは、障害当事者であり親御さんではないのです。是非、今年からは身を挺して社会に！地域に！出て行きましょう！

そして、イマジンの名の由来でもある“想像力”本当にこれが難しい。イマジンには現在70名弱のスタッフで支援をさせていただいています。ヘルパーや世話人のように一人ひとり役割も違いますが、多くのスタッフが年齢を問わずして障害者と関わった経験が・・・という意味で未経験者です。これが社会の縮図なんだと思います。『出会ってこなかった者が想像力を頼りに支援をする』。このことを前提に、イマジンでは日々情報を整備・整理し、支援に入り易くするために役割分担やスタッフの配置も含めて仕組みづくりに尽力しています。まだまだ、利用者・支援者共に安全安心が万全とは言えない部分もあります。今年の一層、力を入れていく部分です。

また、スタッフには“考える”こと要求しています。利用者をイメージして、利用者になり代わって考える。スタッフ間で情報の共有と意見交換をする。これも当たり前のことですが中々できない。答えを出すことを頑張ってきた受験タイプの教育が染みついて拭えないようです。これは、スタッフだけでなく利用者の親御さんも行政の職員も同じですが・・・(笑)。とにかく、日々お付き合いさせていただく中から感じることに気づくことを身につけていただいています。どうぞ、今年もイマジンスタッフにお付き合いください。よろしくお祈りします。

イマジンの事業としては、1月より放課後等デイサービス事業「この指とまれ」を開始しました。子供たちが元気にイマジンに帰ってきます。職員は、賑やかさに押されて自然と2階に逃げていきます(笑)。この事業も設立当時から必要だと言われていた事業で、当時は「レスパイト」と言われ、その後、「放課後児童クラブ」が担い、現在では児童福祉法の改正に伴って福祉サービスとして実施できるようになりました。生活リズムを整えるため、学校から自宅へ帰る間のクッションの役割、家庭事情・・・人によって目的が違いますが楽しく過ごして頂けるのが一番だと思います。

ヘルパー事業、グループホーム・ケアホーム事業、ショートステイ事業と昨年同様に実施していきます。住み慣れた地域で生活するために、これらのサービスを生活の中に組み入れて、不自由な場面を少しでも解消して生活して欲しいと思います。親御さんのコーディネートが問われます！「預けて楽」は無いですよ！サービスは考えて計画的に利用するのです。“使い勝手がいい”のと“気の向くままに使う”は違います。年齢に問わず、いつでも主役は障害当事者なのですから！

今年もイマジンは、この主役たちとご家族の声に導かれて事業を実施していきます。「必要な支援を必要な時に」を主題に日々精進させていただきます。皆様と同じ頂を目指すイマジンの活動へのご理解とご協力をお願いします。共に良き一年にしていきましょう。



つつい雨やどりの生活 ⑱

新年明けしておめでとうございます。つつい雨やどりは穏やかに5回目のお正月を迎え、新しい1年がスタートしました。今年は、3名の方が年越しに帰省されましたが、残る14名はいつもと変わらない休日の様なお正月を過ごしました。ショートステイを利用される方も少なかった為、普段では見る事が出来ないほど静かな日々だった様に感じます。

新年を迎えるにあたり少しでもお正月気分を味わってもらおうと、お正月と言えば…とおせち料理やお雑煮の準備をさせてもらいました。しかし！見慣れないおかずにお箸が止まってしまう方もチラホラ…。くんくんとおいを確認してそっとお皿に戻す方、「コレ何？」と首をかしげながら食べる方など、面白い反応を見せてくれます。翌日から日常メニューになると、皆さん“あっ”と言う間に完食。やっぱりいつもと一緒にが一番の様です(笑)。それでも、ちょっとでも季節感を味わってもらおうとスタッフ側はひと工夫しながら、食事の内容や外出の計画を立てています。

去年は、入居者の人数がグッと増え、新たな課題がたくさん見えた1年でした。それと共に、悩みを共有する世話人も増えた事で、課題に対して「どの様な支援をしたら良いか？」と世話人間で議論をする場面も増えてきました。日々の生活を追いかけていく事で精一杯になりがちだった世話人が、「なぜ？」「どうして？」と疑問を持ち、その思いを言葉にして意見し合う姿が段々と見られる様になったのです。今までやって無かったの…？と思われるかもしれませんが、限られた時間の中で日常の支援を行っている、どうしても目の前のやるべき事に注目しがちで、積極的な意見交換は難しいのが実情でした。課題に対しては、世話人会議や責任者からの投げかけで議論が始まる事が多く、現場はその意見を基に支援を行う…と言った流れでした。しかし、『1番入居者の毎日を見ている世話人が、支援の中で思っている事、感じている事をもっと声に出し、「なぜ？」「どうして？」と考えながら支援をしよう。そしてその意見を検証し、結果まで追いかけてよう。』と積極的に世話人の意見交換を促してきました。業務の後には必ず言葉で報告するようにし、その日を振り返ります。現場に居なかった人に報告する事で、客観的に状況を捉え説明する時間を作ると共に、「なぜ？」を積極的に考えるようにしました。また、カンファレンスや少人数の世話人で話し合いをする時間を増やし、自分たちで考え、統計を取り、検証するような流れを作り始めました。それによって、支援の視点が統一され始め、積極的に報告をし、意見を交し合う事が増えてきました。

とは言っても、まだまだ動き出したばかりで、入居者に付き合ってもらっている場面も多くあります。しかし、少しずつ結果が見えてきた事で、確実に世話人の意識が変わり始めました。今年は更に1歩進んだ支援が出来るように、世話人皆で悩んでいきたいと思っています。今年もどうぞよろしくお願い致します。(担当 二宮)



イマジンヘルパー便り

どのような支援内容でも人と関わることが出来るこの仕事に日々楽しさを感じています。ヘルパーを始めて昨年の9月で一年が経ちました。

初めは支援時間の間に「しなければならないこと」を一番に考えて支援をしていて、ご本人のその時の様子を伺うことで精一杯でした。しかし、何度か入っていく中で利用者の方を少しずつ理解して支援に入るようになり、支援の中で利用者さんの笑顔が見られたり「楽しかった」「ありがとう」と言葉を頂いたり、保護者の方に支援の後のご本人の様子が良かったとのお話を頂いた時に「少しでもご本人に寄り添うことが出来、良い時間を過ごせたな」と思い、ヘルパーをやった良かった♪と感じます。また、支援が終了した後に「もう少しこう出来たかな？」「こっちの方がよかったかな？」と考えることがあります。それを同じ支援に入るヘルパーの中で話し合い、利用者によっては世話人等のスタッフとも話をし、その後の支援により良い形の支援として活かされた時にもご本人の力になることが出来たのが嬉しく感じ、やりがいを感じます。

人が相手だからこそ難しいことや考えることが沢山ありますが、利用者の方と過ごせる時間を楽しみにこれからもヘルパーとして支援を続けたいと思っています。(担当 南田)



今月の世話人のつぶやき (いよいよ雨やどり)

いよいよ雨やどりの生活が始まってから、もう一年が経ちました。入居者さんたちは、初めての環境で慣れるまでに時間が掛かるかも？と心配した方も居ましたが、見る見るうちに慣れてきて、しっかりと自分の生活を落ち着いて過ごしています。

そんな入居者さんS君は、今では入居者さんと関わってくれたり、他の入居者さんの衣類と一緒に畳んでくれたり、世話人のお手伝いをしてくれます。始めは、上手にできなかったおかずの盛り付けも、世話人と一緒に何回も何回もやってくうちに段々と上手になっていきます。自信も付いたのか最近ではいろいろと積極的になってきました。声も小さく、おとなしいS君が「行ってきま〜す！」と大きな声で毎日出かけていく、その姿見ると世話人としての関わりの大切さとやりがいを感じます。(担当 山田)



ヘルパーのよろこび

こんにちは。イマジン事務所でご利用者様とヘルパーのスケジュール管理を行っております、加藤です。私もヘルパーの資格を取得し、支援に入らせていただいておりますが、今回は私の普段の仕事である「ご利用者様とヘルパーのスケジュール管理」を一部ですがご紹介したいと思います。

ご利用者様とヘルパーのスケジュール管理とは、具体的には月間スケジュールの作成、予定変更やキャンセル等による日々の調整とそれに伴うご利用者様とヘルパーへの連絡が主な仕事です。

まず、月間スケジュールの作成ですが、ご利用者様から頂いた1ヶ月の予定を基に、数名のスタッフで「日にち」「時間」「内容」を考慮、ヘルパーの手配をして予定を組みます。それをパソコンに入力。調整とチェックをして月間スケジュールの印刷。印刷された月間スケジュールを1件ずつチェックをして、完成版月間スケジュールとしてご利用者様とヘルパーへお渡ししております。

その際に、大変活躍してくれるパソコンのソフトが「介舟ファミリー」というソフトです。ヘルパーと時間を軸にした下絵に、入力したご利用者様の予定を貼り付けられるソフトで、いくなれば貼り絵のような感覚で、スケジュール作成・変更が出来るソフトです。画面自体は、横棒グラフをイメージしていただければと思います。

例えば、「〇〇様の〇時～〇時の支援をヘルパー△△にお願いしたい」となった時に、下絵となる（ヘルパー△△さん）の場所に、（〇〇様の〇時～〇時の支援）をポンっとクリックすれば、予定が貼り付けられ組まれます。この作業を繰り返し行うことで、月間スケジュールが作成されます。日々の調整もこの作業で行え、キャンセルや時間変更等、急な変更にも即座に対応出来ます。しかし、一度組まれたスケジュールを変更、調整するのに頭を使い、「他のご利用者様へ影響は無いか?」「ヘルパーは安全に移動が出来るか?」などの気を使う少ししんどい仕事でもあります。まだまだ至らない面もございますので、出来ましたらご利用者様はスケジュールの変更が無いようにご協力お願いします。

一人でも多くのご利用者様にヘルパーの支援が届きますよう、スケジュールの作成と管理をスムーズに行っていきたいと思っております。今後ともよろしく申し上げます。（担当 加藤）



今月の世話人のつぶやき（ついつい雨やどり）

ついつい雨やどりで世話人をしていて嬉しく思ったことがあります。世話人の朝は忙しいものであります。入居者さんの着替え、その日の体調、食事、歯磨き、髭剃り等の整容行為などの支援をさせていただき、勤務先や通所施設への出発までのその方の過ごし方を見ていかなければなりません。

ある入居者さんの話です。入居当初は食事に集中するということが難しく、頻りに席を立ってしまう、食堂に入れないなど、食事を終えるのに1時間半かかってしまうということも多々ありました。更に、食事の半分は残されてしまうという状態でした。私自身の知恵の範疇ではこの現状が精一杯、どうしようもないといったところでした。そんな中、世話人が集まり彼の朝についてどのように支援をしていくか?ということ話し合いました。自分一人では到底考え付かないような及びもしない意見がたくさん出され、全員で統一した声掛け、動き、ポイントを共有した支援をしてゆくこととなりました。定期的に状況の整理と分析をしながら、根気強く支援した結果、半年も経たない内に以前のように気が散る様子も少なくなり、穏やかな表情で「おいしい」と口にして30分もあれば食べてしまうようになりました。私一人ではお手上げになってしまいそうなことも世話人全員で協力し支援に当たると何とか成っていくものだなあと感じ、嬉しく思いました。それ以上に彼が朝穏やかな表情で過ごし、朝食後には時間の余裕も出来、大好きなテレビやDVDを見てから出発をして行く様子を見ると世話人を務めさせていただいて良かったとしばしば思います。（担当 中村）



そろそろ雨やどりの様子

年末年始の休みを使って、そろそろ雨やどりには5名の方たちが引っ越してきました。今回も、個性のある方たちばかりで、これからどんな一面をみせてくれるかわくわくしています。

これでそろそろは14名となり、大家族になりました(笑)。以前から住んでいる人たちも、生活してゆく中で様々な一面を見せてくれました。もちろん、喜ばしい一面もあれば、そうでない一面も有ります。そんないろいろな一面を踏まえて生活を見直し、組み立て直すことでその方が笑顔になったり自信をもった時に私たちも嬉しくなります。中には、組み立てたことが馴染まず、再び考え直すこともたくさんあり、入居者の方に苦しい思いや辛い思いをさせてしまったこともあります。今は当たり前となっている入居者の方たちの生活の中にもそんなことがたくさんありました。しかし、入居者の方が不安になったり気持ちや生活がブレそうになった時、自分で気持ちを作り直して普段の当たり前前の生活に戻ろうと頑張る姿は、胸が熱くなり、自然と応援したくなります。

これから新しい生活をそろそろで始める方たちには、どんな当たり前前の生活が彼らを支えるのか??試行錯誤の日々がまた始まります。もちろん、今まで住んできた人たちも、今の生活が完璧ではありません。頭を抱えることが増えるかもしれませんが、そんな時は優しく声を掛けてくださいね♪（担当 古木）

平成24年度の正会員まだまだ募集しています！

日ごろからイマジンの活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。
NPO法人にとって正会員は必要不可欠な存在です。本当にありがとうございました。平成24年度の正会員の募集を引き続き行っています。年会費の受付は常時行なっています。新規の会員も継続の会員も大歓迎です。年会費はイマジンまでお持ちになっても下記口座まで振り込まれても結構です。また、イマジンのサービスを利用されている方は引き落としも可能ですのでお申し付けください。イマジンの活動に引き続きご協力・ご支援をお願い致します。

【年会費】正会員 5,000円 ・賛助会員(個人) 1,000円 ・賛助会員(団体) 20,000円

【振込先】 静岡銀行 島田支店 普通 0606771
特定非営利活動法人イマジン 理事長 澤島直通

◆ 平成24年度の会員になっていただき誠にありがとうございます。

【正会員】

☆ 今泉 初音 様 ☆ 田中 進 様 ☆ 平井 洋作 様 ☆ 山河 勇治 様



新しい仲間の紹介です



◆ 石田喜代子(左)、田中 勇(中)、小松原千恵美(右)

私たちは、放課後等デイサービスの支援スタッフをさせていただいています。子供たちの元気をもらいながら楽しくお仕事をさせていただいています。障害の子供と関わるお仕事は初めてですが、自分たち一人ひとりの経験を活かして笑顔で頑張ります♪会うたびに可愛く思え、自然と笑顔になりますよ。よろしくお願ひします。

◇◇ しまだ元気市に出店のお知らせ ◇◇

島田市の帯通りで開催される『しまだ元気市』にイマジン自慢の“手羽先”で出店しま～す！皆さん、ぜひぜひお越しください♪(担当 平口)

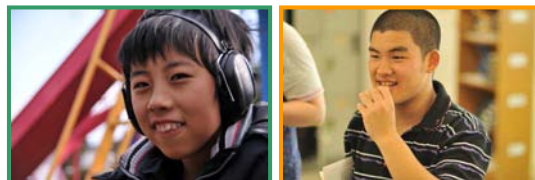
日時 2/24(日)・3/24(日) 9時～13時
場所 島田市帯通り



◇◇ 内藤一智君 写真展覧会のお知らせ ◇◇

2月のふれあいサロンは、『内藤一智君 写真展覧会 ～僕が見た笑顔～』を開催します。内藤君は、平日は一般企業で働き、休日を利用してイマジンのデイサービスへのボランティア活動やケアホームでの世話人業務をしています。彼の趣味である写真。その中でもイマジンの活動の中で彼が見た“笑顔”を皆さんに見ていただきたいと思ひます。しまだ元気市で手羽先を食べたその足で是非お立ち寄りくださいね。お待ちしております♪(担当 塚本)

日時 2/24(日) 10時～15時
場所 荷縄屋(島田市河原町)



【連絡先】 特定非営利活動法人 イマジン

障害者支援センターイマジン

〒427-0022 静岡県島田市本通二丁目4-20

TEL 0547-34-3370 FAX 0547-34-3371

e-mail imagine@za.tnc.ne.jp

http://www3.tokai.or.jp/imagine/

初倉事務所(つつい雨やどり隣)

〒427-0113 静岡県島田市湯田1-1

TEL / FAX 0547-30-4117

e-mail npo-imagine@cy.tnc.ne.jp

